



# きぼっちょいもんさ

—鹿児島の企業・顔・人・心—

## 染織と私

有限会社 益田織物 益田勇吉

私が紬業界に携わったのは昭和42年の頃で、大島紬業界もデザインや染色加工等が技術的に確立され生産反数も増加傾向にある時でした。

当時、染色の研修生として3ヶ月間県工業試験場にお世話になりましたが、紬の事、染色に関する事が全く理解できませんでした。

染色の幅の広さや深さに戸惑い、化学的な事、物理的な事、色彩の事、全ての事に無知で新しい世界を覗くようでした。

大島紬に関しても同様で、工程が多く細かく、デザインを起こしてから製品になるまで時間がかかり、また、工程別に他人の技術に頼る事も多く分業性の為理解に苦しみました。

図案→原料糸→織物設計→糊張→緋縮→染色→緋加工→仕上加工→製織とそれぞれに高度な技術と時間を要します。

3ヶ月の指導を受け、製品が生まれる事に原因が有り確実な理由、解があると知り、その知識が必要だと感じました。

伝統技術は、口伝え、習慣、感覚、それプラス化学的、物理的知識、染色、色彩に関する確実なデータが必要と考え、これらを身に付ける為、県工業試験場や現在の県工業技術センターにご指導を受けて30年になります。この間、新しい製品が出来るときに技術のアドバイスをお願いしています。

例えば、草木染、泥染大島紬の風合いの研究、また、高度成長時代では多くの種類の紬がありましたが、本来の泥染の風合いが要求される、色大島紬、白大島紬の風合いの研究など・・・。

県工業技術センターご支援の鹿児島ハイテック研究会の一員として、業界の長い間のテーマである摩擦堅ろう度向上に関する研究は、当時の担当であった仁科先生を中心に全員で各先生方のご指導により特許を取得し、現在年間2百反の処理を行い、まさにハイテック研究会の成果だと思えます。

またその一員として共に仕事が出来た事を喜びに思っています。自営して15年、「染織工房ゆう」で喜界島の草木染をはじめて5年になります。

今までご指導していただきました技術を基に、いかに少量多品種で独自の物を表現出来るかについて日頃考えています。今後とも、伝統技術を生かし、新しい大島紬を研究して行きたいと思っております。その為にも県工業技術センターのご指導を宜しくお願い致します。

### プロフィール

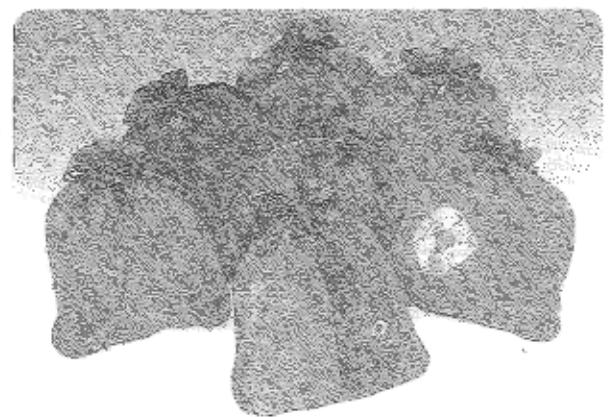
生年月日：昭和21年10月10日

出身地：大島郡喜界町荒木

血液型：O型

モットー：継続は力なり

趣味：絵画



喜界島の草木染め